

鈴木 勇気

すずき・ゆうき 理学療法士 15 年目
株式会社ワン・ライフ

病院・クリニック・デイケアを経験した後、地元で地域貢献したいと思い、株式会社ワン・ライフにて地域リハビリテーションに携わっています。また自身でも市民活動団体「地域を明るくするリハビリテーション専門職の会相模原」を設立し、介護予防教室や起居移乗研修を行っています。ご紹介する 3 冊は地域リハビリテーションを実践するうえで参考にしている本です。

後輩に薦める 2 冊



イラストでわかる生活支援のためのリハビリ・プログラム 1—自分を広げよう

藤原 茂 著
青海社 2006 年

はじめて在宅支援に携わったとき、今までのかかわり方とまったく違い戸惑ったことを今でも覚えています。週 1 回のかかわりで結果を出すにはどうしたらよいのか、とても悩みました。そんなとき、この本に出会い、生活と運動の結びつき、活動と参加とのつながりを知ることで利用者様へのかかわり方が激変しました。目標設定や自立支援を考えるうえでも大切な視点が学べる本です。



事例でわかる人間作業モデル

山田 孝 編著
協同医書出版社 2015 年

リハビリテーションに携わる中でその方がどうしたら能動的に動き出せるようなかかわりができるのか、それをいつも考えていました。「意思」、「習慣化」、「遂行能力」、「環境」、「価値観」、「興味関心」などから評価・アプローチをどのように展開していくのか事例を通して学ぶことができ、大変わかりやすいです。「肯定的な人生物語を紡ぎ出し、自宅復帰した ADL 全介助レベルの事例」、ここを読んだときははしびれました。ぜひご一読ください。

自分の 1 冊



知覚に根ざしたリハビリテーション—実践と理論

樋口貴広 和泉謙二 真下英明 種村留美 監修・編集
シービーアール 2017 年

リハビリテーションでは「気づき」が重要であり、能動的に動き出すようなかかわりが大切です。

それを紐解くには、生態はどのように環境情報を探索しているのか、情動、感情、運動などがどのように関連しているかを整理することでかかわり方がみえてきます。われわれセラピストも環境情報であり、どのような情報提供をするのか、やり取りするのか、そこがポイントだと思います。介護予防やスタッフ育成などにも大変参考になるので、ぜひ一度読んでみてください。